

主催 邦楽連合会

社団法人 義太夫協会
中央区築地一ノ三ノ五松竹会館内
電話 三五四一―五四七―一

清元協会
世田谷区桜ヶ丘四ノ九ノ十八
電話 三七〇六―九五二七番

財団法人 古曲会
中央区銀座八ノ六ノ三 新橋会館
電話 三五七―一〇二―一六番

新内協会
新宿区大久保二の二三の二
電話 三三〇〇―四六五三番

常磐津協会
港区南青山五ノ十三ノ三
電話 三四〇七―七四五三番

社団法人 長唄協会
中央区銀座二の十一の十九の四
電話 三五四二―六五六四番

社団法人 日本三曲協会
港区赤坂二ノ十五ノ十二ノ四〇三
電話 三五八五―九九一六番
(五十音順)

後援 東京都

平成十年三月七日(土) 朝日生命ホール

第一部 正午開演 三時半終演
第二部 午後四時開演 七時半終演

'98 都民芸術フェスティバル

第二十八回 邦楽演奏会

— 邦楽名曲選 —

後ますますのご活躍を期待いたします。

終わりに、フェスティバルにご参加いただいた邦楽連合会の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、公演のご成功と今

すことを、心から願っています。

この「都民芸術フェスティバル」に一人でも多くの皆さんが参加され、優れた舞台芸術を心ゆくまで楽しんでいただ

います。

東京都は、今後とも、都民の皆さんが素晴らしい芸術文化に親しむことができるよう、文化事業の充実、発展に努めてま

このフェスティバルも、昭和43年度のスタート以来、今回で30回目の節目を迎えることができました。これも多くの都民の皆さんや関係団体の皆様のご参加とご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。おかげさまで、へすぐれた芸術を、心ゆたかな、くらしの中へ」というキャッチフレーズのとおり、今やすっかり都民の皆さんの暮らしの中に定着してまいりました。私たちが真に豊かでゆとりある生活を送っていく上で、芸術文化はなくてはならない、いわば生活の必需品です。そして、東京都が現在目指して取り組んでいる「生活都市東京」を実現していくためにも、芸術文化活動は極めて重要な役割を果たすものと考えています。



東京都知事 青島幸男

東京の初春を彩る「都民芸術フェスティバル」が、今年もまた盛大に開催されます。

東京都が芸術文化団体の公演を助成することにより、より多くの都民の皆さんに最高の舞台芸術を鑑賞していただけるよう実施してまいりました

'98 都民芸術フェスティバルによせて

98 都民芸術フェスティバル公演計画一覧

分野	種目	団体名	演目	公演数	期日・会場	入場料	問い合わせ先
音	オペラ	ロッシニ作曲「シンデレラ」 (二期会オオベラ振興会)	3	2/7・2/8・2/9 東京文化会館大ホール	13,000円～2,000円	(財)二期会オオベラ振興会 電話 3796-1831	
	オーケストラ	ヴェルディ作曲「精姫」 (藤原歌劇団)	6	2/21・2/22・2/23・2/24 2/27・2/28・2/29 新国立劇場 東京文化会館大ホール	23,000円～2,000円	(財)日本オオベラ振興会 電話 5466-3181	
		原嘉義子作曲「那須與一」 (日本オオベラ協会)	2	3/20・3/21 新宿文化センター	10,000円～2,000円	(財)日本オオベラ振興会 電話 5466-3181	
楽	邦楽	永瀬のララテライント	1	3/10 よみうりホール			
	邦楽	シヤンソング	1	3/11 よみうりホール			
	邦楽	第28回邦楽演奏会	1	3/12 よみうりホール	2,500円	(社)日本音楽家協会 電話 3585-3903	
演	現代演劇	加藤周一作 「富永仲基異聞-消えた版木」	1	3/7 新恒朝日生命ホール	2,000円	日本三曲協会 電話 3585-9916	
	児童・青少年演劇	「不思議の国のアリス」 ルイス・キャロル原作	1	3/14～3/22 東京芸術劇場 3/24～3/26 前進座劇場	6,090円～3,150円	(社)日本劇団協議会 電話 3341-8151	
	児童・青少年演劇	「アンナ・カレニナ」	1	3/21～3/30 東京芸術劇場 他4会場 新国立劇場(オベラ劇場)	4,500円～2,800円 無料招待	日本児童・青少年演劇劇団協議会 電話 5353-6821	
舞	バレエ	チキリゴス(スライム)	3	2/7・2/8・2/9 新国立劇場(オベラ劇場)	10,000円～4,000円	(社)日本バレエ協会 電話 3499-5524	
	バレエ	ピエール・ラコット版 牧阿佐美バレエ団 「精姫」全巻	3	1/16・1/17・1/18 東京文化会館大ホール	12,000円～2,000円	東京バレエ協議会 電話 3725-8888	
	バレエ	「送路」 「最後のテールブル-四月六日木曜日」 「冬のタンゴ」	2	2/28・3/1 新国立劇場(オベラ劇場)	5,000円～2,000円 無料招待	(社)現代舞踊協会 電話 3400-4544	
踊	現代舞踊	第41回日本舞踊協会公演	6	2/10・2/11・2/12 国立劇場大劇場	5,000円 無料招待	(社)日本舞踊協会 電話 3533-6455	
	現代舞踊	能および狂言	1	1/17 国立能楽堂	3,000円	(社)能楽協会 電話 3574-6441	
	現代舞踊	第29回東京都民俗芸能大会 第28回都民寄席	2	2/14・2/15 東京芸術劇場中ホール 2/1～3/29 八王子市民会館他8会場	無料招待	東京都民俗芸能大会実行委員会事務局 電話 3978-3651 都民寄席実行委員会事務局 電話 3633-8622	
4分野	1・2種目	1・2団体	85公演	21会場			

○ これらの種々の公演の詳細に関するお問い合わせは、各団体へ、都民芸術フェスティバル全般にわたるお問い合わせは、東京都生涯学習部文化課(電話5320-6861)へお願いします。

第一部 番 組 (十二時開演)

一、 萩江鐘かねの岬みさき

同 同 唄
 萩 萩 萩
 江 江 江
 敏 丸 佐
 子 子 記

箏 同 同 三味線
 藤 萩 萩 萩
 井 江 江 江
 百 音 泉 ゆう
 代 登 之 子

二、 義太夫 近頃河原の達引・前

堀川猿廻しの段

浄瑠璃 竹本素八
 三味線 豊澤源平

三、 清元大和やまとい手向がな五字むじ(子守)

浄瑠璃 清元延勇美
 同 清元延栄一
 同 清元延洲寿代
 同 清元延邦寿

三味線 清元延栄美代
 同 清元延八寿美
 上調子 清元延志寿佳

四、尺八鶴つる

の 巢す 籠ごもり
尺八山本邦山
同 山本真山

五、長唄島しま

の 千せん 歳さい

唄 杵屋吉十郎
同 杵屋佐近

三味線 杵屋佐武郎
同 杵屋佐英治
小鼓 堅田喜三久

六、新内若木わか 仇あだ 名な 草くさ (蘭蝶)

浄瑠璃 富士松 鶴千代

三味線 新内誠十郎
上調子 鶴賀喜代寿郎

七、常磐津竹ちく 生ぶ 島しま

浄瑠璃 常磐津 文字太夫

三味線 常磐津 八百二

同 常磐津 八重太夫
同 常磐津 仲重太夫
同 常磐津 二三太夫

同 常磐津 啓寿郎
同 常磐津 二之助

第二部 番

組 (午後四時開演)

一、三曲はる春の曲さぶく

箏替手 鳥居名美野
同 山下名緒依
尺八 青木彰時

箏本手 高橋名美憲
同 荒川名美依
同 小林名与郁
同 市川名与寿

二、宮とり蘭鳥邊山やま

浄瑠璃 宮蘭千和恵
同 宮蘭千よし恵

三味線 宮蘭千加波
同 宮蘭千加波

三、清元かたみの筐花はな乎むかし向そて橘のか (吉原雀)

浄瑠璃 清元 志佐太夫
同 清元 栄志太夫
同 清元 美好太夫

三味線 清元 幸三郎
同 清元 正之輔
上調子 清元 栄七郎

四、新内ふだん不断ざくらしも桜下うさ総土産みやげ (佐倉宗吾)

— 宗吾住家の段 —

浄瑠璃 新内 光翁太夫

三味線 新内 勝一郎
上調子 鶴賀 喜代寿郎

五、常磐津松の羽衣

浄瑠璃 常磐津 津太夫
 同 常磐津 三之太夫
 同 常磐津 秀三太夫
 上調子 常磐津 東吾郎
 同 常磐津 啓寿郎
 三味線 常磐津 東蔵

六、義太夫近頃河原の達引・奥

堀川猿廻しの段

浄瑠璃 竹本 駒之助
 同 竹本 朝重
 同 竹本 綾一
 同 竹本 越孝
 同 三味線 鶴澤 寛也
 同 三味線 鶴澤 津賀 也

七、長唄正治郎連獅子

同 同 同 同 唄
 芳村 芳村 芳村 芳村 芳村
 金四郎 伊之助 泰一 伊知蔵 伊十郎
 同 同 同 同 三味線
 杵屋 杵屋 杵屋 杵屋 杵屋
 栄十郎 栄四郎 栄津二郎 栄佐吉 栄敏吉

雛子笛
 小鼓 小鼓 小鼓 小鼓 鳳
 望月 望月 望月 望月 望月
 太喜雄 喜宏 喜久 左太郎 晴之

曲目解説（演奏順）

（解説 竹内道敬）

第一部

一、萩江鐘の岬

宝暦三年（一七五三）春に「京鹿子娘道成寺」が初演され、主演した中村富十郎は大好評・大評判を得た。富十郎は宝暦九年に大阪中山座で「江戸鹿子娘道成寺」の題で再演したが、この時の芝居の題名が「九州釣鐘岬」であり、その一部が地歌に「鐘が岬」の題で伝承された。深草検校作曲ともいう。これが幕末のころこの題に変更されて萩江に取り入れられ、今日に至っている。取り入れたのは萩江里八（三世清元齋兵衛）らしい。したがってよく知られた長唄の「娘道成寺」の前半部分で、本調子の部分が多いのが特色。

二、義太夫 近頃河原の達引・前

―堀川猿廻しの段―

天明二年（一七八二）江戸外記座で初演。後の正本に「作者為川宗輔、筒井半二、奈河七五三助」としたものと「中村重助再撰」としたものがある。歌祭文、歌舞伎、一中節などで知られていた京都のお俊伝兵衛の心中事件（河原の心中、または米屋の心中）に、京都四条河原の喧嘩と表彰された親孝行な猿廻しの話をからませて脚色したもの。

井筒屋伝兵衛は遊女お俊と恋中である。横淵官左衛門がお俊に横恋慕し、四条河原で伝兵衛を辱めた上に打擲するので、伝兵衛は官左衛門を殺し、自害しようとする。そこにかけてつけた幫間久八が、日頃の恩返しにと罪を引受け、伝兵衛は落ちて行く。お俊は堀川の生家に帰される。そこからこの場面になる。

お俊の兄与次郎は律儀者で、猿廻しをしながら盲目の母の面倒を見ている。母と兄はお俊の身を案じて、無理に伝兵衛への離縦状を書かせ、死ぬときは一緒に覚悟している伝兵衛に渡そうとするまで。

三、清元 大和い手向五字（子守）

文政六年（一八二三）三月、江戸森田座で岩井紫若（七世半四郎）が演じた五節句の変化舞踊「大

和い手向五文字」の四番目、七夕の場面。増山金八作詞、初世清元齋兵衛作曲。
越後出身の子守が主人公で、鳶に油揚をさらわれた子守が、それを追っかけて出て、子守歌を歌ったり、当時の流行歌にあわせて踊ったりするという内容で、当時の世相などもわかったのしい。

四、尺八鶴の巢籠

十八世紀以降、もつともよく知られた尺八曲。同名異曲が多いが、その前後関係は現在のところよくわからない。しかし古くから普及尺八曲として行われていて、宗教的ではなく、芸術的な曲として「鹿の遠音」と双壁をなしている。
今日演奏されるのは都山流本曲のそれで、大阪系の胡弓本曲を初代中尾都山が編曲したものと伝えられる。雛鶴の誕生から巢立ちと別れまでの喜びや悲しみを描いた曲で、タバ音という鶴の擬音が吹かれるのが特色。二管で親子の鶴の掛け合い演奏になる。一種の標題音楽である。

五、長唄島の千歳

明治三十八年（一九〇五）四月一日、東両国伊勢平楼で、四世望月長九郎が七世望月太左衛門（朴清）を襲名した時に開曲。大概如電作詞、五世杵屋勘五郎作曲。初演の挨拶状には、初代太左衛門が安永二巳年（一七七三）に鳴り物の一家を立ててから、本年巳の年が一二三年に当たるので七世を襲名すると述べ、「鼓曲島の千歳」とある。
島の千歳はわが国の白拍子（遊女）の祖で、「しまのちとせ」というのが正しい。それを能の翁・千歳にあやかっつて「せんざい」と読み替えたもの。同郷の仙台出身の如電が、所蔵の扇面の絵にヒントを得たと伝える。

六、新内若木仇名草（蘭蝶）

初代鶴賀若狭掾作詞・作曲。安永（一七七二―八一）末年ごろにできたものであろう。
市川屋蘭蝶という浮世声色身振り師は、柳屋の此糸となじみを重ね、女房のお宮が身を売った金まで入れ揚げしてしまう。お宮は此糸に逢い、蘭蝶と縁を切ってくれと頼む。「縁でこそあれ」以下のクドキは、新内節の別名になっているほど知られている。一言でいえば男女の三角関係だが、あまり収入のない蘭蝶、その正式な女房であることだけが生きがいであるお宮、そして頼る者のいない天涯孤

独な此糸。この三人は微妙なバランスで生きている。当時のどうにもならない世相を背景に、お宮が行動を起こしたところからドラマが生まれる。このあと多分此糸と蘭蝶は死ぬだろうし、それを聞いたお宮も死ぬことになるのだろうと暗示している。

七、常磐津 竹 生 島

明治三十年（一八九七）十一月、常磐津・岸沢両派が和解した記念に作られた。竹柴其水作詞、五世岸沢古式部（六世式佐）作曲。

能の「竹生島」を脚色したもので、琵琶湖の北部にある竹生島に詣でようとした末広要が、舟人に便船を頼み、所の女に出会ってその願い事を聞く。そこで近江八景を読み込んだ願いになり、やがて湖面から弁財天と龍神があらわれ、常磐津と岸沢の繁栄を祝すというもの。

第二部

一、三曲 春 の 曲

二世吉沢検校作曲。『古今和歌集』春の部の和歌六首をそのまま歌詞として、早春から晩春にかけて配列し、新しい組歌としたもの。吉沢検校は幕末の頃、八橋検校の時代にさかのぼって組歌にあった品位を取り戻そうとして古今調子を考案し、「古今組」という一連の曲を作った。そのひとつで美しい曲としてよく演奏される。

明治二十八年（一八九五）ごろ、松阪春栄が手事と替手を補作してから、手事もの箏曲として知られるようになった。

二、宮 籬 鳥 辺 山

明和六年（一七六九）刊の『宮籬花扇子』に初めて見える。宮籬鸞鳳軒作曲。宮籬節の代表曲。鳥辺山の心中事件は、おまん源五兵衛、お染半九郎などがあつたが、明和五年（一七六六）に初演された義太夫節「太平記忠臣講釈」で、塩谷判官の弟縫之助と傾城浮橋がこの心中をまねて遊ぶという場面があつた。それをもとにしたので、登場人物は浮橋・縫之助になった。

三、清 元 筐 花 乎 向 橘（吉原雀）

文政七年（一八二四）二月、江戸市村座初演。三升屋三三治作詞、初世清元齋兵衛作曲。

長唄の「吉原雀」を少し改め、前後に新しく書き足したもので、「新吉原雀」ともいう。江戸吉原に出入りする遊客の様子を描いているが、一中節の「傾城浅間嶽」の鳥尽しを入れているのが長唄にはない特色。今では意味のわからない言葉もあるが、当時の時代色が感じられる。

四、新 内 不断 桜 下 総 土 産（佐倉宗吾）——宗吾住家の段——

安政三年（一八五六）三月、富士松魯中作詞・作曲。原作は義太夫節「花雲佐倉曙」で、その七段目の前半。

義民として知られた佐倉宗五郎の苦心を描いたもので、いよいよ直訴しようと決心した宗五郎が、雪の中、きびしい探索の目をかいくぐってわが家へたどり着き、刑罰を避けるために女房に離縁状を渡すまで。このあとは通称を「子別れ」といい、四人の子に別れを告げ、立ち去るまで。

五、常磐津松の羽衣

明治三十二年（一八九九）四月開曲。岸沢式政作詞、二世岸沢仲助作曲。よく知られた羽衣伝説によったもので、人間のあさましさと天人の純粹さとを対照させている。常磐津節の人気曲。なお新古演劇十種の内の「羽衣」とは別の曲である。

六、義太夫 近頃河原の達引・奥

—堀川猿廻しの段—

解説は第一部を参照。

一緒に死のうとお俊を尋ねてきた伝兵衛は、離縁状を渡されて腹を立てるが、そこで与次郎が字が読めないので、読めといわれて声を出して読み始める。これが母へ当てた書置であった。二人の愛情の強さにつれた母と与次郎は、心中を承知の上で末永く夫婦になれとはげまし、門出の祝いに猿にお初徳兵衛の万歳を舞わせて、お俊伝兵衛を送り出す。

貧しい生活の中での盲目の母の愛情、朴訥な兄与次郎の愛情、それを背景にした男女二人、お俊伝

兵衛の愛情が見事に展開する。

なおこのあとは、二人が心中しようとしたとき、官左衛門の悪事が露見して二人の命は助かり、めでたしとなる。

七、長唄 正治郎連獅子

明治五年（一八七二）七月、東京村山座初演。二世河竹新七（黙阿弥）作詞、三世杵屋正治郎作曲。

文殊の浄土清涼山には牡丹の花が咲き乱れ、胡蝶が飛び交う中で獅子がたわむれている。それに、子獅子が生まれると親獅子はわざと谷へ蹴落として駆け上がってくる子だけを育てるといふ伝説を加えたもの。その前、文久元年（一八六一）に杵屋勝三郎が作曲していた「勝三郎連獅子」をもとに、わかりやすくしている。

御 礼 邦 楽 連 合 会

本日はようこそおでかけ下さいまして、ありがとうございました。何かと不行き届きの点もございましたが、お許しを願ひまして、どうかごゆっくりとお楽しみ下さいませよう、お願いを申し上げます。

今までには、このようにしてまとめて御観賞していただく機会は、少なかったように思います。その少ない機会を大切にしようと、出演者も一生懸命でございます。これからも、どうか続けて邦楽に変わらぬ御支援をいただけますように、お願い申し上げます。

来年もここ新宿の朝日生命ホールで、三月十三日(土)に開催する予定でございます。番組がきまり次第、御案内をお送りいたしますので、はさみこみのアンケート用紙に、おところ、おなまえをお書き込みの上、受付にお渡し下さいますよう、お願い申し上げます。また、今日おきき下さいました御感想や御意見などもお寄せ下さいまして、よりよい邦楽のために御指導を賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

ありがとうございました。